

令和 8 年度 第 11 回活動報告

実施日 令和 8 年 8 月 22 日（土）

参加総数 31 名

酷暑による二回の中断後、本日より下半期の活動を再開しました。

8 月 11 日に「荷下ろし道」の普請をしましたが、その日午後 8 時の添田駅前の気温は 32℃、別所駐車場は 26℃で、作業中もそれほどの暑さは感じませんでした。8 月 17 日の週間予報では最高気温 32℃となっていたので、再開を決めホームページに発表しました。

さて、22 日、7:30 に別所駐車場到着。車から降りて、直射日光の激しさと湿度の高さに驚きました。思わず身構える…暑さです。

「おはようございます！」と元気な声が。見れば常連の T さんです。豊前坊から登って縦走を楽しんだ後 11 時に合流します、と言って、たくさんの土のう袋と熊手を下さいました。古稀をはるかに越えていらっしゃるのにこの元気！へたっている場合ではありません。

T さんに元気づけられて、受付の準備、直心庵の用具の準備などをすませると、続々と協力の方々が集まり始めました。事務局も含めて 22 名。ラジオ体操の後、直心庵に向かい装備を整えて 9 時 30 分入山。急坂にさっそく汗が噴き出してきます。中岳山頂 10 時 40 分。昼食後現地入り。

現場に行ってみて驚きました。大量の土のう袋が山積みされていきました。どなたかが、回収作業をして下さっていました。胸が熱くなりました。また、強く背中を押された気がしました。

まずはリレーラインを作って、この袋を仮置き場まで搬出。袋は 52 個ありました。

作業を二つに分け、6 人は土のう袋のゴミを添田町のリサイクル袋に移し替える作業、16 人は現場での回収作業に当たりました。時おり涼しい風は吹くものの、湿度が異常に高く、拭っても拭っても汗が噴き出し、飲んでも飲んでも喉が渴きます。私は仮置き場での詰め替え作業をしましたが、直射日光の下で、二度ほど立ちくらみがしました。

約 1 時間で詰め替え作業は完了。現場に合流しました。さきほどの T

さんがスコップをふるってゴミを掘り出しておられました。理由は不明ですが、その場所はビニールゴミが1メートル以上の層をなして堆積していました。言語に絶する！とはこのこと。あきれかえりますが、ここではこんなことは「当たり前」なのです。

とにかく地道に、あせらず、急がず、作業を続けるしかありません。しかし皆さんとても明るく、冗談を交わし、あちこちから笑い声が聞こえる作業現場です。英彦山の神様が喜んでおられるような気がします。

13時20分、持参した赤のリサイクル袋が底をつきました。作業を終了し、再びリレーラインを作って搬出です。仮置き場には159個の土のう袋が積み上がりました。

記念写真（皆さんいい顔をしておられます）の後、体力に応じて土のう袋を担いで下山。15時30分には全員が無事に下山して、本日の作業を終了しました。

心配していましたが、一人の事故も熱中症もなかったことに胸をなで下ろしました。

翌日は15時から、英彦山在住の方々が別所駐車場で分別作業を行って下さいました。23日もガラガラと日が照って、たいへんな作業だったと思います。深く感謝申し上げます。



現在までの協力者延べ人数	396 人
回収したゴミの重量	4,799 k g

多くの皆様のおかげで、徐々にではありますが、美しい土地が増えています。今後ともご協力の程をお願いいたします。

この山頂美化プロジェクトの「かたち」です。

山頂に登っての空き缶やビンの回収… A

一般登山者による荷下ろしの協力… B

英彦山在住の方々による分別作業… C

添田町による回収と処分… D

この A から D の四つの歯車がスムーズに回って初めて山頂の美化が達成されます。そのどれが欠けてもプロジェクトはうまく機能しません。

それぞれに関わる人々の顔ぶれは違いますが、どの関わりも大切に貴重なものでもあります。

関わって下さった方々に厚く御礼申し上げます。

**次回の活動は 9 月 12 日土曜日です
今後ともよろしくお願いいたします。**